

中学校の「校則」の見直しをすべき



佐藤美雪議員は、全国的に問題となっている「ブラック校則」が市内中学校ではないのか、子どもや大人、地域が望む「校則」なのかどうか見直していくことが必要でないか、と教育長に質しました。

特にスラックスとスカートを着て「ジェンダーフリー」の制服採用について、「子どもたちの意見を聞き積極的に取り組むべき」と主張しました。

「選択できる制服を導入する」

教育長は、「1校でこの冬から女子のスラックスの選択制が導入される。他の学校にも広がっていくようにしていきたい。」と答弁しました。

「子どもの権利条例」の周知具体化を！

佐藤美雪議員は、じめや虐待、貧困など子どもを取り巻く環境が厳しい状況の中、「奥州市の子どもたち

9月議会一般質問

地球温暖化対策推進計画の策定を

瀨川貞清議員は、気候危機対策について取り上げ、異常な高温と水害の発生など深刻な被害がでているなかで、県内の市町村で進んでいる「地球温暖化対策推進計画」を奥州市でも策定すべきでないかと質しました。

慎重にならざるをえない

倉成淳市長は「総論では同じ方向で考えていると理解している。宣言するからには、しっかりした根拠を持った計画にしたい」と答えるにとどまりました。

国保税の負担を協会けんぽ並みに！

瀨川貞清議員は、高すぎる国民健康保険税の引き下げについて質しました。

奥州市の国民健康保険税と中小企業の労働者が加入している協会けんぽの保険料の額について明らかにするよう求めました。

国保は1.7倍の負担！



担当者は、「標準モデル（夫婦2人、子ども2人、世帯収入420万円）で、国保税は、4

ちが自分らしくのびのびと育ち、自分の力を大いに発揮して幸せに生きられるように」という理念のもと制定した『奥州市子どもの権利に関する条例』について、市民への周知と新たな事業展開が必要ではないか、と質しました。

子ども食堂への支援をしたい

倉成淳市長は、「既存の事業を継続しつつ、子どもの居場所づくりとして子ども食堂を実施している団体への支援に力を入れたい」と述べました。

ため池保全サポートセンターを設置をし安全対策を！



菅原明議員は、7月23日、金ヶ崎町のため池で草刈作業中の死亡事故が起きているとして、奥州市の対策の状況について質し、ため池の安全対策や保全管理を支援するための「ため池保全サポートセンター」の設置を求めました。

市内ため池490カ所

倉成淳市長は、金ヶ崎の事故はため池のコンクリートのり面で、滑って溺れたもの。胆沢平野土地改良区に、口頭で安全対策を求めたと説明しました。

コンクリートのり面ため池は、市内20カ所、ため池は（490カ所確認）全部確認できていないとし、「ため池保全サポートセンター」は東北では岩手県のみ設置されていないことを明らかにしました。

岩手県に、設置を強く要望し、ため池管理、活動支援に努めたいと回

7月21日の議員全員協議会で医療局から「病院経営強化プラン」策定方針が示されました。

千葉敦議員は、「経営強化」となれば、医療施設の統廃合が懸念されるとして、新たなプランでは、5つの市立医療施設が確実に継続されるのか、と質しました。

5つの医療機関を存続するプランとする

倉成淳市長は、「現在、市立病院・診療所経営強化プラン策定支援業務委託を進めているが、5つの市立医療機関を存続するプランとする」と述べ、改めて5つの施設を存続させることを明言しました。



菅原明議員は、夏の暑さが厳しくなっていることから、熱中症予防のためエアコンがない高齢者世帯に対し、エアコンの設置の助成制度の創設を求めました。

見守り・啓発活動を進める

倉成淳市長は、まずは、介護予防に取り組んでいる「よさってクラブ」や高齢者の見守りを行っている配食サービスなど様々な媒体を通じて、熱中症予防の啓発を行うと答弁しました。

啓発活動だけでは不十分では

菅原議員は、「よさってクラブ」や配食サービスを利用しない高齢者も多いとして、まずは、制度としてエアコン設置の助成制度を創設し20件とか30件の助成をすることから始めるべきでないかと改めて質しました。

喜多方市で実施している

担当者は、福島県の喜多方市、相馬市で制度を導入していることを明らかにし、30件から50件の申し込みがされていると述べるにとどまりました。

高齢者世帯へのエアコン設置の助成制度の創設を

総合水沢病院は現在地で検討を

千葉議員は、総合水沢病院は老朽化し耐震性の問題があるのは周知のことであり、現在地での大規模改修（耐震性の向上）か改築が現実的ではないかと質しました。

経営上、持続可能な場所に

倉成淳市長は「5つの市立医療施設が果たすべき役割を明確に位置付け、施設間の連携強化と機能分化を図った上で、新たな機能を付加し、経営上持続可能な病院として適切な場所に建設予定であると述べるにとどまりました。

今野裕文議員は、コロナ感

染症の急拡大で、感染症の症状が出てPCR検査が受けられなくなっている実態を告発し、発熱外来診療所を設置すべきでないかと質しました。

現時点で考えていない

倉成淳市長は、発熱外来を新たに設置すると、各医療機関から医師と看護師を引き抜くことになり効率的でないとし、現在PCR検査を行っている医療機関に、それぞれ検査件数を増やすこと、かかりつけ患者以外の検査を増やしていく医療機関を拡大することを医師会と協議したいと回答しました。

子どもと親の接種促進を！

今野議員は、小中学生とその親世代のワクチン接種を急ぐために、金曜日の夜の接種体制を組むなど体制の強化と接種促進策を具体的に進める必要があるのではないかと質しました。

夜間の実施は困難！？

倉成淳市長は、各医療機関がワクチン接種に加え、相当量のPCR検査を行っていることから、医療従事者からは、夜間の実施は困難との回答を得ていると述べるにとどまり、具体策は示されませんでした。

米価下落・肥料高騰への対応を支援を！



今野裕文議員は、米価下落や肥料等の高騰に対する農家の支援策について、現在示されている対策では不十分で、さらなる支援が必要だとし、倉成淳市長の見解を質しました。

子供の均等割りを減免すべき

瀨川議員は、繰り返し国保税の引き下げを求めるのは、同じ収入に対する負担の違いが大きく、国保の加

入者が所得の低い世帯で構成されているためだと強調。「この構造的な矛盾を解決するために地方自治体として取り組める課題に挑戦する」とし、国保税の引き下げ、子どもの均等割りの減免制度の創設を改めて求めました。